

―農場管理を“見える化”し、食の安全を確保する最新手法 GAP―

2012 年 GAP 普及大賞

北海道・上川農業改良普及センターと同センターの普及指導員
が受賞しました

日本 GAP 協会（理事長：木内博一）は、6 月 28 日に GAP 普及大賞の選考会を開催し、北海道・上川農業改良普及センターの取り組みを含む 3 つの GAP 普及の優良事例を表彰することを決定しましたので、ご報告致します。

■受賞事例（普及組織による GAP 普及の分野）

農業改良普及センターが中心となった北海道・上川管内の GAP 普及の取り組み
<受賞者>北海道・上川農業改良普及センターと担当普及指導員 伊與田 竜

都道府県の普及組織による GAP 普及は全国で行われていますが、その中でもパイロット的な取り組み事例であると判断しました。需要に応じた安全・安心な農産物の安定供給と新たな需要の拡大を図ることを目的に、上川地域全体への GAP 普及・啓もう活動を行っています。

同センターの普及指導員が JA や農業生産法人を指導し、これまで合計 15 戸の JGAP 認証農場を誕生させています。

これらの活動をふまえ、同センターは昨年 11 月に「JGAP 導入の手引き」を発刊しました。同書には、生産者が JGAP に取り組む際に利用できる帳票例や管理方法の写真がまとめられています。北海道・上川管内での利用を越えて、全国的に利用できる完成度の高い手引になっています。現在は上川農業改良普及センターのホームページで公開しており、他地域の GAP 普及でも参考にされ始めています。この点も高く評価できる取組であると判断しました。

同センターの「JGAP 導入の手引き」を土台として、各地で更に良い手引へと改良が加えられていく形で、日本全国の共有の財産である「JGAP 導入の手引き」が作成されていくことを期待しています。

GAP 普及大賞は、今年一年間で最も GAP の普及に貢献した取り組み事例を表彰するものです。
2012 年 GAP 普及大賞の選考委員は次の通り。
中嶋康博（東京大学教授）、上杉登（全国肥料商連合会）
岩元明久（元農林水産省東海農政局長）

NEWS RELEASE

北海道・上川農業改良普及センターの取り組みに加え、下記の2事例が同時に受賞しました。いずれも優劣付けがたいGAP普及の優良事例です。

■受賞事例（流通企業との協業の分野）

「セブンファーム」と「顔が見える野菜。果物。」のGAP普及の取り組み
＜受賞者＞株式会社セブンファーム

■受賞事例（資材関係者によるGAP普及の分野）

創業113年 肥料商「日の丸産業社」による北海道のJGAP普及
＜受賞者＞株式会社日の丸産業社と同社のJGAP指導員

以上、3受賞事例につきまして、下記のシンポジウム内で表彰式と受賞者による記念講演が行われます。ぜひご来場ください。

■シンポジウム「GAP Japan 2012」

日時：2012年7月18日 13時から17時

場所：東京大学 弥生講堂（東京都文京区弥生1-1-1）

関連ホームページ：http://jgap.jp/LB_06/index.html

問合せ先：佐藤 TEL 03-5215-1112 FAX 03-5215-1113 E-mail: info@jgap.jp

（取材を希望される場合は、下記を記入の上、FAXまたはE-mailで送付ください。）

御社名 _____ 部署名 _____ 御名前 _____

住所 _____ 電話番号 _____